

樺島正法教授略歴

- 一九四二年一〇月一八日 大阪市に生まれる
一九六六年一月 司法試験合格
一九六七年三月 京都大学法学部卒業
同 年四月 司法研修所入所
一九六九年三月 司法研修所卒業
同 年四月 大阪弁護士会入会
一九六九年四月 松本健男法律事務所勤務
一九七〇年四月 樺島法律事務所開設
一九七七年 不動産鑑定士補登録
一九八五年一二月 京都仏教会の顧問弁護士就任（現在に至る）
一九八八年四月 大阪弁護士会米国陪審制度の視察旅行に参加
同 年七月 米国ウイスコンシン州立大学の夏期セミナー受講（同年八月迄）
一九八九年七月 米国ジョージタウン大学の夏期セミナー受講（同年八月迄）
一九九〇年七月 米国ABA夏期セミナー受講（同年八月迄）
同 年十一月 第二次大阪弁護士会米国陪審制度視察団に参加

- 一九九二年四月 大阪弁護士会常識委員会委員就任（一九九三年三月迄）
- 同 年八月 大阪弁護士会国際人權センター視察旅行参加
- 一九九三年四月 京都大学法学部大学院研修生（一九九六年迄）
- 一九九五年七月 オックスフォード大学・国際人權法夏期講座受講
- 同 年八月 「陪審制度を復活する会」事務局
- 一九九六年 日本弁護士連合会代議員就任・大阪弁護士会人權擁護委員会特別委嘱委員就任（一九九七年迄）
- 同 年 刑事弁護委員会特別委嘱委員就任（一九九七年迄）
- 同 年九月 アメリカ陪審制度視察旅行参加
- 二〇〇二年四月 アメリカ陪審制度視察旅行参加
- 二〇〇四年四月 西本願寺審事に就任（現在に至る）
- 二〇〇四年四月 神戸学院大学実務法学研究科教授
- 二〇一三年三月 神戸学院大学定年退職

樺島正法教授主要著作目録

I 著書

一九八八年（昭和六三年）

『古都税反対運動の軌跡と展望』 共著 第一法規出版(株)

一九八九年（平成元年）

『陪審制度』 共著（共訳） 第一法規出版

一九九六年（平成八年）

『法の解釈は裁判所の専権か——代理人としての経験から

——』 『対話型審理——「人間の顔」の見える民事裁判』
所収） 信山社出版

二〇〇〇年（平成十二年）

『陪審制の復興——市民による刑事裁判』 共著 信山社出版

二〇〇二年（平成十四年）

『宗教法人の代表者に対する名誉棄損と法人に対する名誉
棄損の成否——ドイツの判例・学説を素材として——』

（『弁論と証拠調べの理論と実践——吉村徳重先生古稀記
念論文集』 所収） 法律文化社

二〇〇七年（平成十九年）

『えん罪を生む裁判員制度』

現代人文社

II 翻訳

一九九四年（平成六年）

『アメリカ刑事手続法概説——捜査・裁判における憲法支
配の貫徹——』 鼎博之と共訳 第一法規出版

二〇〇六年（平成十八年）

『ローマ法と比較法』 瀧澤榮治と共訳 信山社出版

III 学術論文

一九七〇年（昭和四五年）

岡山大生糟谷君の死 月刊労働問題一四一号

一九九五年（平成七年）

捜査と拘禁の分離を——代監の自白強要の構造——七—熊本
県警の暴力団に対する取調暴行事件 自由と正義四六卷五号

一九九八年（平成一〇年）

新法下の文書提出命令と今後の課題

判例タイムズ四九卷一八号

二〇〇二年（平成一四年）

黒川紀章および（株）黒川紀章建築設計事務所名誉毀損損害賠償等請求事件（東京地判平一三・一〇・二二および東京高判平一四・七・一八）における事実・証拠収集）

判例タイムズ五三卷二六号

二〇〇五年（平成一七年）

裁判員制度・刑事訴訟法の改悪に反対し、陪審制度の復活を
現代の理論四号

二〇〇八年（平成二〇年）

市民は司法を信用しているのか——日本の同法制度の問題
Lit'lecovk 六三卷一〇号

IV その他

一九七二年（昭和四七年）

〔犯罪性精神病質者に対する問題〕（第六八回日本精神神経学会総会）——（刑法改正における保安処分問題と精神医学（シンポジウム））
精神神経学雑誌 七四卷二号